

(みよし市) 天王小学校 CS・地域学校協働本部

市町村の 基本情報	学校数	小学校 8 校、中学校 4 校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員	1 人	
		地域学校協働活動推進員	33 人	
		統括コーディネーター	0 人	
		地域コーディネーター	0 人	
	CS 及び地域学校協働本部設置状況	CS を導入している学校数	小 6 校	中 4 校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小 7 校	中 4 校	



(活動の実際)

<目的>

- ・学校と地域が力を合わせて学校運営に取り組み、相互にパートナーとして協働活動を行う。

<活動内容>

- ・目指す姿「学校の経営方針」「地域連携の意義」の共有
- ・地域のボランティアによる、教育活動支援
(例) 読み聞かせ、授業支援 (家庭図工等) 引率支援 (虫捕り、季節の自然にふれあう授業) 等
- ・登下校の安全支援
国道 153 号バイパスや旧道の交通量が多い通学路の安全を再確認。校区の地図を大きく拡大して会議室に広げ、通学団代表の高学年児童の声を聞く。交通指導員や保護者・教員と共有、地域ボランティアを募集し、校区を挙げて子供を守る活動へと連携を拡大中。

<意識していること>

- ・子供を常に中心に。子供たちの声を聞き、学びを深め、安全を確保する方策を検討。
- ・推進員や学校運営協議会委員や区長、民生児童委員等、地域有識者と活動方針内容の共有。
- ・校長が経営方針を明確にリードし、教頭が連携を推進、統括事務長が発言やまとめを行う有機的役割分担。

(活動の流れ)

- ①校長、教頭、統括事務長と、連携の在り方や方針、推進員の人選を打ち合わせる。
- ②推進員と何度も懇談。柱を「登下校の安全」「教育活動支援」の二つに決定。
- ③校区通学路を大きな地図にし、危険箇所、立哨状況把握、児童や保護者地域住民と共有。協力者を募る。
- ④校外学習の見守り支援や、ミシン等授業ボランティアを募集。参加者全員と成果を共有。改善を重ねている。

(◎成果と●課題)

- ◎校長ら教員が普段から地域に足を運び、関係者と対話を重ねていることで、地域との信頼関係が土台にある。学校だけに任せてはいけなないと、連携がしやすい雰囲気がだんだん高まっている。
- ◎活動内容をプリント等で配信することで、学校教育に対する関心と協力体制が地域に広まりつつある。
- ◎コーディネーターを中心に保護者やボランティアを募り、行政区とともに連携を図ることで、できる時にできる人が無理なく活動でき、参加者も充実感を味わうような素地ができつつある。
- 家庭・地域の、より多くの方が参加し、活動の幅を広げていくため、一部のボランティアに負担が偏らず、気軽に誰でも関わりができるような組織づくりを今後どう進めていくか。

(関係者の声)

- ・通学路を地図で見ることで、改めてたくさんの人に見守られて登下校できていると、感謝したい気持ちになった。通学団をまとめて、小さい子を安全に連れて来られるよう頑張りたい。(児童)
- ・教科や生活科、総合的な学習の時間に関わってもらうことで、安全に作業や移動ができ、教師だけではできない児童の学び合いが深まった。準備や打合せに少し時間はかかるが、人手が増えて子供が生き生きし、支援者に任せることが増え、働き方も気持ちも楽になった。(教師)
- ・家庭科や校外学習の支援で、安全に分かりやすく授業ができた子供が喜んでいて、登下校の見守りが増えたのも親として安心。可能なときにボランティアとして協力したい (保護者)
- ・地域の子供は宝物で、毎日のふれあいが楽しい。向こうから挨拶してくれ、やりがいがある。(地域)